



建昌っ子だより

[校訓・キャッチフレーズ] 元気で 力のある 建昌の子

「自主性」や「主体性」を育てるために

校長 坂口 利一

3学期が始まり、子どもたちは次の学年に向けて夢や目標を立て、学習や体力づくりなど自分を高めようと、いろいろな場面で積極的に努力する姿が見られるようになってきました。

寒い朝、高学年の子どもたちが、自主的にほうきをもって落ち葉掃除をしたり、ごみ拾いをしたりする姿はとても素晴らしく、本校の自慢の一つでもあります。下学年の子どもたちも靴並べや後片付けをきちんとしようとする態度が身に付いてきました。

このような様子を見ると、多くの子どもたちに「自主性」や「主体性」が育っているなと感じます。

さて、この「自主性」や「主体性」について調べてみると、一般的には、次のように言われています。

- 自主性：やるべきことは明確で、その行動を率先して人に言われなくて自らやること。
- 主体性：何をやるかは決まっていなくても、自分で考えて判断し行動すること。

つまり、自主的な姿とは、親や先生など周囲から言われなくても、率先して掃除をしたり、学習に取り組んだりする態度などが身に付いていると言えます。

そして、主体的な姿とは、まず、掃除や学習する目的を考えます。例えば、「学校をきれいな環境にしよう」「自分の苦手な学習を克服しよう」と目標設定をしたら、いろいろとやるべきことを考えて実行することができる姿といえるのではないのでしょうか。



低学年期は、親や教師が目標を示して、それに向かって努力する素直さや忍耐力が育ってくる時期です。そして、成長するにつれて、自分なりに目標を決めてチャレンジし、大人から称賛されることで自主性の基礎が育ってきます。子どもたちは好奇心旺盛です。いろいろなことにチャレンジして、失敗を繰り返しながら成長していきます。さらに、高学年期になるにつれて自ら考えて行動する主体性が育ってきます。

「自主性や主体性」を育てるためには、失敗を恐れずに何度でもチャレンジしようとする寛容な雰囲気や環境づくりが大切であると考えています。

自主性から主体性へと一人ひとりが高まるよう、家庭、地域、学校が手を携えて、かけがえのない子どもたちの自立に向けて取り組んでいきましょう。

今年も、本校の教育活動への御理解と御協力をよろしくお願いいたします。